

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1



臨時総会審議事項

駒澤大学経済学部同窓会の閉会について

駒澤大学経済学部同窓会（以下同窓会と略す）役員会は会則第12条により臨時総会を開催し、令和7年6月14日をもって同窓会閉会の提案をすることを決定した。

提案理由

駒澤大学経済学部同窓会は平成5年に設立され32年の歴史を歩んできた。

本会の目的は、第一に「同窓生の親睦」、第二に「経済学部および母校の発展に寄与」することであり（会則第2条）、経済学部卒業生や教員の熱い思いによって設立された。

「同窓生の親睦」を目的とする活動としては、3年ごとの総会や懇親会、経済学部創立20年、30年の記念祝典や講演会、経済学部創立70周年を祝う会等を実施し、全国から会員や卒業生が参集し学部の発展を祝い旧交を温めてきた。

「経済学部の発展に寄与」する活動としては、学生シンポジウム、ソフトボール大会や球技大会の支援、インターンシップへの協力、卒業式での成績優良者の表彰等を実施してきた。諸行事には財政支援をおこない、会員も参加して卒業生と学生が一体となった事業として定着した。

同窓会活動は年2回発行の会報「こまざわ経済通信」で会員に報告し、情報共有と組織強化の努力を重ねてきた。会報は第54号まで継続発行された。

これらの活動を実務的に支えたのは、歴代役員の献身的なボランティア活動であった。

こうして活動を続けてきた本会も時代の推移とともに困難に直面するようになった。入会者の減少と会員の高齢化である。入会者減少の原因を特定することは困難であるが、学生の組織とのつながりを求める意識が希薄化し、組織への帰属を嫌う傾向が強まったことが一因とみられる。会員は年を追って減少し、現在は357人となっている。（令和7年3月）

入会者の減少により年齢構成に極端な歪みが生じ、65歳以上の会員が81%、70歳

以上が62 %となっている。対照的に40歳以下の会員は8 %にすぎない。(令和5年11月)

同窓会の運営を担っている役員も高齢化しており、役員(学外)全員が75歳以上である。辞任者増加のため業務負担は過重になり、後継者を確保できないため今後の活動続行を展望できない状況になっている。

会員も運営者も高齢化した結果、同窓会の活動実績は年を追って低下している。

第10回総会(令和5年12月2日)の出席者は26人(うち役員8人)であり、直近の講演会・懇親会(令和6年11月23日)の出席者も18人(うち役員9人)であった。

事態を打開するため、会員獲得や役員募集に不断的努力を続け、卒業式やホームカミングデーでの会員募集、会報「こまざわ経済通信」、同窓会ホームページ、Facebook等による広報強化、経済学部・大学当局との連携などあらゆる方策を講じたが、会員減少と高齢化を止めるだけの成果をあげることはできなかった。同窓会活動の退潮は全国的な傾向ともいわれる。

入会者の減少、会員の高齢化、役員の後継者難という「三重苦」に対して、役員会は同窓会再建について数年にわたり慎重審議を重ね、あらゆる打開策を実施した結果を分析し、同窓会の存続可能性について否定的な認識を持たざるを得なかった。

以上の状況に鑑み、役員会は会則第12条による臨時総会を開催し、本会の目的に即して残余資産を駒澤大学経済学部へ教育支援金として寄贈し、同窓会閉会を提案するとの結論に達した。

32年の同窓会の歴史と会員の母校愛を想うと苦渋の決定であるが、会員各位には事情ご賢察のうえ、ご理解賜りますことをお願い申し上げます。

令和7年2月21日

駒澤大学経済学部同窓会役員会

思い出の写真



2019年11月23日 駒澤大学経済学部創立70周年記念シンポジウムより



2019年12月1日 「経済学部創立70周年を祝う会」式典より
故・大場経済学部同窓会長



2023年12月2日 第10回経済学部同窓会総会より



2019年12月1日 「経済学部創立70周年を祝う会」懇親会より



2023年12月2日 経済学部同窓会懇親会より



2023年12月2日 経済学部同窓会懇親会より



駒澤大学

<https://www.komazawa-u.ac.jp/>



経済学部

<https://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/economics/>



経済学部同窓会

<https://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/economics/alumni.html>

経済学部同窓会事務局(経済学部事務室) 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 電話: 03-3418-9343